

菅波 茂

2011年7月11日。

シンガポールにある日本  
プレミアムクリニックを  
訪問した。橋口宏総院長  
や広田真美医師に東日本  
大震災救援活動に多大な  
募金をいただいたことに  
対する感謝状を直接に渡  
すためだった。

津波の映像と3万に上  
る死者の数はシンガポー  
ルの人たちに衝撃を与え  
た。「まさかあの日本が」  
と。橋口総院長は受診さ  
れた日本人の患者さんの  
みならず、登録している  
すべての患者さんにも募  
金をお願いしてくれた。  
「私の同級生のつくった  
AMDAという医療団体  
が東北の被災地で救援医  
療活動を実施しています」  
と。支援をお願いします」

シンガポール人のマネ

ジャーであるウエディン  
氏は日本プレミアムクリ  
ニックが入居している医  
療ビルの全開業医を訪問  
して募金をお願いしてく  
れた。ウエディン氏は積  
極的に募金活動をした動  
機を語ってくれた。「2  
004年12月に発生した  
スマトラ沖地震・津波被  
災者に対して何もできな  
かったことを非常に後悔  
していたから」と。

橋口総院長は1983  
年に倉敷成人病センター  
がシンガポールに在留邦  
人の健康管理と診療を専  
門とするジャパングリー  
ンクリニックの立ち上げ  
のためにシンガポールに  
派遣されて以来、シンガ  
ポールで診療活動を行っ  
ている。2年前に日本プ  
レミアムクリニックを広  
田真美医師と設立した。  
広田真美医師はAMDA  
の会員としてザンビアに  
おけるAMDA-JIC  
Aの結核プロジェクトに

も専門家として参加して  
くれた。  
日本プレミアムクリニ  
ックの経営は順調であ  
る。橋口総院長は夢を語  
ってくれた。「将来はフ  
イリピン、ベトナムそし  
てインドなど、在留邦人が  
日本人医師を必要とする  
国にクリニックを拡張し  
たい」と。  
6月27日に宿泊したベ  
トナムのハノイホテルで  
は、職員が胸に付けてい  
たバッジに「We su  
pport Japa  
n」と描かれていた。ホ  
テルの柱には垂れ幕がか  
かっていた。「東日本大  
震災募金。在ベトナム日  
本国大使館を通じて東日  
本大震災で被害にあわれ  
た方々へ寄付をさせてい  
たきます。ご協力あり  
がとうございます」と。  
モンゴルでは、震災直  
後に同国政府関係者、公  
務員が給与の一部の寄付  
を決め、またお年寄りや

## 東日本大震災に対する海外からの支援

シンガポールの日本プレミアムクリニック  
で。右から広田医師、ラウ院長、橋口総院  
長、菅波、菅波知子AMDA副理事長



として宮城  
県名取市、  
気仙沼市か  
ら2グルー  
プの観光を  
受け入れ  
た。ウラン  
バートル第  
五小中学校  
の生徒は折  
り鶴をお  
り、手紙と  
絵を日本に  
送った。「私  
のうちは部  
屋があいて  
るから一緒  
に暮らそう  
、日本のうち  
ができるま  
で」等のメ  
ッセージがあ  
った。

AMDAが3月11日の  
翌日から東日本大震災被  
災者のために救援医療活  
動を開始し、現在も復興  
支援を続けて実施でき  
ているのも多くの国内外  
の方々の支援があればこそ  
と感謝している。逆に、  
国内外の支援者の方々に

田舎の遊牧民、孤児院の  
子どもたちまでもが寄付  
を日本大使館に届けてく  
れ、そして日本大使館の  
周りやスファートル広場  
に600人がキャンドル  
を持って集まり被災者の  
ために祈ったそうだ。  
AMDAモンゴル支部  
長は、1カ月分の給与の  
寄付を本部に申し出、A  
MDAモンゴル参加は、  
モンゴル旅行業界の一員  
として宮城  
県名取市、  
気仙沼市か  
ら2グルー  
プの観光を  
受け入れ  
た。ウラン  
バートル第  
五小中学校  
の生徒は折  
り鶴をお  
り、手紙と  
絵を日本に  
送った。「私  
のうちは部  
屋があいて  
るから一緒  
に暮らそう  
、日本のうち  
ができるま  
で」等のメ  
ッセージがあ  
った。  
AMDAが3月11日の  
翌日から東日本大震災被  
災者のために救援医療活  
動を開始し、現在も復興  
支援を続けて実施でき  
ているのも多くの国内外  
の方々の支援があればこそ  
と感謝している。逆に、  
国内外の支援者の方々に

(AMDAグループ代表)